

発行所  
日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
電話 1ヵ月5343円+税  
電話 東京 (03) 5777-2351 代表  
© 日刊自動車新聞社2020

1月6日  
(月曜日)

マフラーコーキング・接着剤・5分間硬化接着剤・シリコーン

# スワンボンド

シリコーンシーラント・フチルテープ・ボデーシーラー

ツカダ化学製品製造株式会社  
URL <http://www.iskadar.co.jp/>

# 日刊自動車新聞

## 自動運転社会の課題を提起

### 明治大学が一般向けシポジウム開催

#### 大学 / 研究

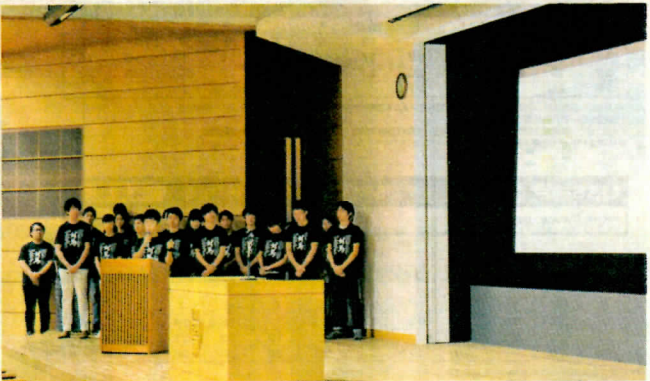
明治大学自動車運転社会総合研究所(MIAD、中林真理子所長)は、明大駿河台キャンパス(東京都千代田区)で「自動運転と社会変革」をテーマとした一般向けシポジウムを開催した。自動運転技術の社会実装に向けた法律、制度整備を目指す同研究所や地方創生を絡めた学生プロジェクトの成果報告をはじめ、有識者による講演、パネルディスカッションを展開。これらを通じて、自動運転の実現には技術の実証にとどまらず、社会や地域とのコンセンサスづくりが欠かせないという問題を提起しながら、議論を深めた。

シポジウムはMIADで「地方創生」「技術」の4部保険業代表を務める中林所長、門の研究、実証実験の成果をがコーディネーターを務め、披露した。また、特別ゲストのSBD中山孝二前所長を進行役に、ライブの佐治友基社長兼CEO MIADが進める自動運転に〇が登壇し、自動運転事業の関連した「法律」「保険」を取り組みを講演した。佐治社

#### 技術の実証にとどまらず

#### 地域とのコンセンサス重要

スの志本動一 長兼社長が講演、これに続いたパネルディスカッションで



明治大学自動車運転社会総合研究所のシポジウム。地方創生と自動運転の研究成果を40人超の学生が発表

き、学生ら40人超のプロジェクトチームが「明大対馬サマースクール」や電気自動車(EV)の自動運転バスを利した実証実験の成果を報告した。サマースクールは昨年3月、MIADと長崎県対馬市が結んだ連携協定に基づくキックオフイベントとの位置づけ。学生らが対馬に滞在し「ソサエティ5.0(超スマート社会)」、「SDGs(持続可能な開発目標)」を念頭に置き地方創生と自動運転の役割などを研究した。ここではパーソナルEVに加えて、森林伐採用の自動搬送ロボット、木材運搬自動トラック、船舶のオール電化と自動運転化など、対馬の特長を踏まながら持続・発展を支えるさまざまなアイデアを打ち出した。さらに取り組みをスピーディーに展開するた

#### 講演やパネル討論



パネルディスカッションの様子。同シポジウムは明大で昨年度「アカデミックフェスタ」の主要プログラムとして11月下旬に開催。同フェスタの通称は「先生の学園祭」

は自動運転にまつわる「技術」「経営」「健康寿命」増大など生活レベル向上に基幹技術(WDG)社長の劉芳(リウ)ジュンカ氏、対馬市役所の安重武志氏の合計6人、MIADの技術部門代表、萩原一郎特任教授が司会を務めた。高齢者の歩行生活改善、健康寿命の延伸に向けた「自動運転電動公共路線バス」の導入、燃料電池車(FCEV)の九州特区を生かした対馬での再生可能エネルギー活用など、専門家ならではの視点で幅広く提言が行われた。シポジウム終了後、中林所長は「さまざまな分野にわたる内容のため2部構成に分けた。しかし、結局はすべての分野がつながっており、その連携が自動運転社会の実現に必要な。対馬市と連携を結んだが、これは行政に力を入れてくれる行政は他にない」と述べるとともに、これまでの実績を踏まえながら自動運転社会の早期実現に貢献していく姿勢を示した。

#### EV実証実験 対馬での成果発表



会場には明大とSBDが共同実証実験で使った自動運転バス「ナビヤ・アルム」を展示

自動運転スクールバス

岡部駅間約1.6kmの公道を、マイクロバスを改造した自動運転車で走行する。

上野入善長は、芝浦工大芝浦キャンパス(東京都港区)で2019年の取り組みや成

マートフォンアプリを開発するコウエル(廣瀬倫理社長、東京都品川区)の担当者が17

最も適  
自動車産業の総合データ  
さまざまな統計データ  
の動向、新型車情報  
充したほか、主要団  
ニューリーダーを取り  
ist)には約80団体、  
収録。ウェブサイト  
高さも魅力です。

世界と日本! 自動車産業界唯一の総合年鑑

# 自動車年鑑 2019-2020年版

Automotive Yearbook

自動車産業の総合データ集。自動車産業、自動車社会など自動車に関する主要な動向全般を収録。